

国産バイオ燃料の大幅な生産拡大に向けて

－ 総理報告（工程表）のポイント －

技術開発がなされれば2030年頃には国産バイオ燃料の大幅な生産拡大は可能

技術開発の課題と生産可能性

技術開発

- ① 収集・運搬コストの低減 …………… 山から木を安く下ろす、稲わらを効率よく集める機械等を開発
- ② 資源作物の開発 …………… エタノールを大量に生産できる作物を開発
- ③ エタノール変換効率の向上 …………… 稲わらや間伐材などからエタノールを大量に製造する技術を開発

原料と生産可能性

現在
30KL

2011年
5万KL

・糖質（さとうきび糖みつ 等）
・でんぷん質（くず米 等）

・セルロース系
（稲わら、間伐材 等）
・資源作物

2030年頃
大幅な生産拡大
* 農林水産省試算 600万kl

バイオ燃料の利用率の向上

【米国】2017年に350億ガロン
（1.3億KL、日本（600万KL）の22倍）を目標
〔2007.1 ブッシュ大統領一般教書演説〕

制度

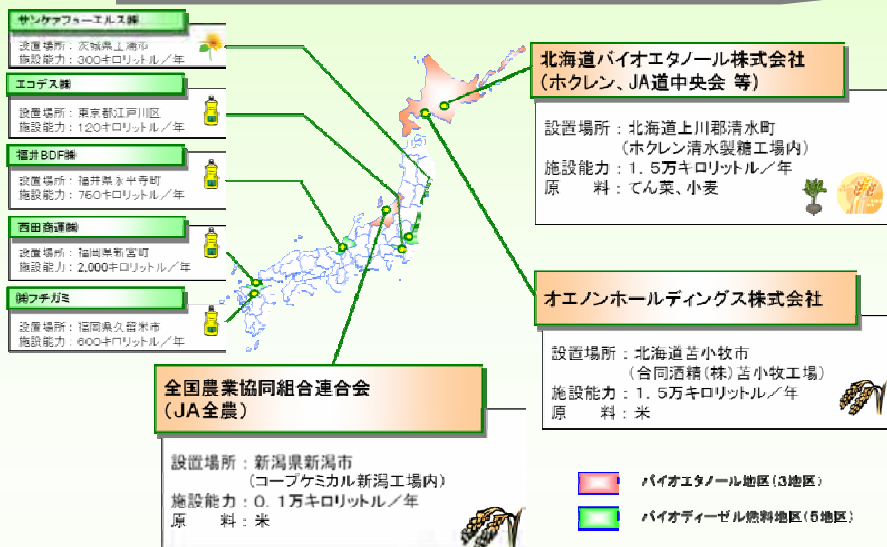
欧米、ブラジルの制度を踏まえ、国内制度を検討

※総理報告は、関係7府省（内閣府、総務省、文部科学省、農林水産省、経済産業省、国土交通省、環境省）により取りまとめ

国産バイオ燃料の大幅な生産拡大

当面の取組

国産バイオ燃料元年
H19年度から大規模実証を実施(合計で3.5万KL)

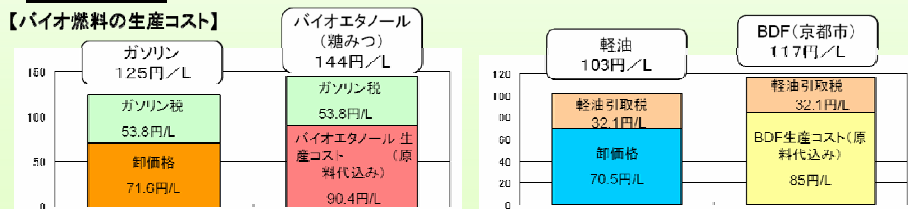


20年度税制改正要望事項

- バイオエタノール混合ガソリン及びバイオディーゼル燃料に係る軽減措置の創設(揮発油税、軽油引取税等)
- バイオ燃料の生産及び利用拡大に関する特例措置の創設(法人税・所得税、固定資産税)

参考

【バイオ燃料の生産コスト】



※ガソリン税53.8円/L = 揮発油税48.6円/L + 地方道路税5.2円/L、ガソリン・軽油については2007年7-9月の平均価格
(出典:石油情報センター)

中長期的取組

低コスト・高効率なバイオ燃料生産技術の開発



国民理解のための普及開発の取組

- ・ バイオマスの利活用が地球温暖化対策や地域活性化につながることを等について、国民の理解を深めるため、様々な活動を実施。



バイオマスタウンパンフ(左)
総合戦略パンフ(右)



バイオディーゼル燃料で走る九州バイオマス発見の旅
(九州農政局)



エコフェスタ2007(新潟)
(北陸農政局)



農林水産業者とバイオ燃料製造事業者による一体的な取組の推進

- 農山漁村には、稲わらなどの未利用のバイオマスが豊富に存在→農林水産業者とバイオ燃料製造事業者による低コストでの安定供給に向けた取組を推進。

農山漁村

原料生産



米・麦・てん菜・さとうきび等

林地残材・間伐材等

菜種・ひまわり・廃食用油

課題

生産コストの低減
原料の安定供給

バイオ燃料製造



一体となって
取組み

バイオエタノール

バイオディーゼル

課題

製造コストの低減
低廉安定供給

都市部

流通・販売



- ・地球温暖化防止の観点
- ・エネルギー供給の多様化
- ・食料の安定供給

好循環

- ・都市部の理解
- ・国産バイオ燃料の利用拡大
- ・企業の進出

雇用の確保

農村地域の振興

農地の有効活用